

## 第4章 「高橋松之助記念顕彰事業」 と「朝の読書全国縦断交流会」

平成 17（2005）年 7 月に「文字・活字文化振興法」が公布・施行したのを受け、翌平成 18 年に、全協内に「文字・活字文化振興法推進協議会」を設置し、文字・活字文化の振興と読書推進に活動を広げた。平成 19（2007）年 10 月に設立された「文字・活字文化推進機構」への支援・協力のほか、具体的に 2 つの事業を開始した。「高橋松之助記念顕彰事業」と「朝の読書全国縦断交流会」である。

全協・出版科学研究所の発足にも尽力した高橋松之助は、昭和 52（1977）年 6 月に東販の第 4 代社長に就任したが、翌月急逝した。高橋と夫人リウの遺志を体して、全協に寄付された高橋の遺産である東販株式を基金として、平成 19（2007）年より高橋松之助記念「朝の読書大賞」「文字・活字文化推進大賞」の顕彰事業を開始、以来毎年 10 月に表彰式を行っている。平成 25（2013）年 8 月に高橋松之助記念顕彰財団として独立したが、現在も全協の全面的な協力のもと、事業を継続している。

また、平成 21（2009）年から、独立行政法人国立青少年教育振興機構の子どもゆめ基金の助成を活用し、「朝の読書全国縦断交流会」を実施した。これは平成 8（1996）年から、トーハン協力のもと全国各地の先生方の主催で行われていた「交流会」が平成 16 年で途切れていたものを、大塚笑子氏の協力のもと引き継ぐ形で行われた。全協主催としては平成 21（2009）年 11 月を皮切りに、毎年数か所で実施、平成 26（2014）年 2 月でトーハン協力時代から数え 47 都道府県での開催を達成した。

## 4-1

# 高橋松之助記念「朝の読書大賞」「文字・活字文化推進大賞」 実施要項

### ■ 趣旨

文字・活字文化振興法の理念に則り、読書推進と文字・活字文化振興に貢献し、業績を上げられた学校および地方自治体・団体・個人を顕彰、表彰状ならびに賞金を贈呈します。

この事業は、東京出版販売株式会社（現・株式会社トーハン）元社長・高橋松之助氏と夫人リウ氏の遺産である、株式会社トーハンの株式の配当金をもとに運営され、文字・活字文化の振興に資することを目的とするものです。

### ■ 賞

#### 高橋松之助記念「朝の読書大賞」

「朝の読書」とは、学校で毎朝10分間、生徒と教師が全員で本を読むという活動です。全国の学校から教育効果が報告されています。この「朝の読書」活動で顕著な実績のあった学校を対象に表彰いたします。

- 選考対象 「朝の読書」活動で顕著な実績のあった小学校・中学校・高等学校（特別支援学校を含みます）
- 授賞数 3校程度
- 正賞 賞状・トロフィー
- 副賞 各30万円

（大賞のほか、「優秀校」として5校程度表彰 賞状、図書カード贈呈）

#### 高橋松之助記念「文字・活字文化推進大賞」

より人間的な生き方を示唆し、思考力や想像力を育んでくれるものとして、地方自治体、読書推進団体あるいは家族の単位などで地域に根ざした読書活動が広がりつつあります。こうした読書推進と文字・活字文化の振興に業績のあった地方自治体・団体・個人を対象に表彰いたします。

- 選考対象 広く文字・活字文化の振興に業績のあった地方自治体・団体・個人
- 授賞数 1
- 正賞 賞状・トロフィー
- 副賞 30万円

### ■ 選考

- 賞の選考は以下の過程により行います。
  - ①関係団体、報道機関、地方自治体等による推薦（自薦を含む）
  - ②当財団内の選考委員会および選考顧問による選考
- 選考顧問（敬称略、50音順）  
阿刀田 高（作家）、片山 善博（早稲田大学公共経営大学院教授・元総務大臣）

### ■ 贈呈式

- 会場 出版クラブビル（東京都千代田区神田神保町1-32）
- 日時 毎年10月下旬頃を予定

## 4-2

# 高橋松之助記念「朝の読書大賞」「文字・活字文化推進大賞」 歴代受賞者

(主催：第1回～6回まで全国出版協会、第7回以降は高橋松之助記念顕彰財団)

	朝の読書大賞	文字・活字文化推進大賞
第1回 (平成19年)	葛飾区立上平井小学校 (東京都葛飾区) おいらせ町立木ノ下中学校 (青森県上北郡) 熊本県立第二高等学校 (熊本県熊本市) 特別賞 大塚笑子	茨城県大子町 高岡らっこの会 (富山県高岡市)
第2回 (平成20年)	川井村立川井小学校 (岩手県下閉伊郡川井村) 石垣市立石垣中学校 (沖縄県石垣市) 高知県立安芸中・高等学校 (高知県安芸市)	佐賀県伊万里市
第3回 (平成21年)	稚内市立稚内東小学校 (北海道稚内市) 千葉市立緑町中学校 (千葉県千葉市) 岐阜県立恵那農業高等学校 (岐阜県恵那市) 山陽女子中学校・高等学校 (岡山県岡山市)	「本の学校」生涯読書をすすめる会 (鳥取県米子市)
第4回 (平成22年)	袋井市立袋井北小学校 (静岡県袋井市) 大桑村立大桑中学校 (長野県木曾郡大桑村) 広島市立広島工業高等学校 (広島県広島市)	日本で一番子どもたちが本を読むまちをつくる会 (高知県須崎市)
第5回 (平成23年)	富田林市立寺池台小学校 (大阪府富田林市) 平戸市立平戸小学校 (長崎県平戸市) 青森市立浪打中学校 (青森県青森市) 徳島県立板野高等学校 (徳島県板野郡板野町)	鹿児島県出水市
第6回 (平成24年)	久山町立久原小学校 (福岡県糟屋郡久山町) 伊丹市立東中学校 (兵庫県伊丹市) 文化学園大学杉並中学・高等学校 (東京都杉並区)	福島県大熊町教育委員会 (福島県双葉郡大熊町)
第7回 (平成25年)	見附市立田井小学校 (新潟県見附市) 笛吹市立浅川中学校 (山梨県笛吹市) 石川県立小松商業高等学校 (石川県小松市)	三省堂書店を応援し隊 (北海道留萌市)
第8回 (平成26年)	茅野市立永明小学校 (長野県茅野市) 柴田町立船岡中学校 (宮城県柴田郡柴田町) 福井県立金津高等学校 (福井県あわら市)	NPO法人 時をつむぐ会 (群馬県高崎市)
第9回 (平成27年)	米子市立福米東小学校 (鳥取県米子市) 清教学園中・高等学校 (大阪府河内長野市) 香川県立高松東高等学校 (香川県高松市)	幕別町図書館 (北海道中川郡幕別町)
第10回 (平成28年)	七尾市立天神山小学校 (石川県七尾市) 横手市立横手南中学校 (秋田県横手市) 富山県立富山いづみ高等学校 (富山県富山市)	K-mix 静岡エフエム放送 (静岡県浜松市) 特別賞 ビブリオバトル (普及委員会本部：滋賀県草津市)
第11回 (平成29年)	霧島市立青葉小学校 (鹿児島県霧島市) 白山市立松任中学校 (石川県白山市) 千葉県立八千代西高等学校 (千葉県八千代市)	青森県八戸市「本のまち八戸」
第12回 (平成30年)	ひたちなか市立那珂湊第一小学校 (茨城県ひたちなか市) 玖珠町立玖珠中学校 (大分県玖珠郡玖珠町) 京都府立久美浜高等学校 (京都府京丹後市)	絵本のまち有田川 (和歌山県有田郡有田川町)
第13回 (令和元年)	南越前町立南条小学校 (福井県南条郡南越前町) 樹徳高等学校・樹徳中学校 (群馬県桐生市) 出水市立出水商業高等学校 (鹿児島県出水市) 岐阜県立東濃特別支援学校 (岐阜県土岐市)	やまなし読書活動促進事業実行委員会 (山梨県)

## 4-3 選考委員・選考顧問 財団役員一覧など

### ■ 選考委員

朝倉邦造（第1回～第9回）、上瀧博正（第1回～）、田中健五（第1回～第10回）、  
肥田美代子（第1回～）、浅野純次（第10回～）、上野徹（第11回～）、柳楽節雄（第11回～）

### ■ 選考顧問

阿刀田高（作家・山梨県立図書館名誉館長）（第1回～）  
井出孫六（作家）（第1回～第11回）  
植田康夫（上智大学名誉教授、元読書人社長）（第1回～第11回）  
片山善博（早稲田大学公共経営大学院教授・元総務大臣）（第8回～）

### ■ 公益財団法人 高橋松之助記念顕彰財団

設立：平成25（2013）年8月1日

### ■ 財団役員一覧（令和2年3月現在）

理事長	浅野純次（元東洋経済新報社社長）	（平 28.3 ～）
常務理事	原 正昭（全国出版協会職員）	（平 25.8 ～）
理事	上瀧博正（元トーハン社長）	（平 25.8 ～）
理事	柳楽節雄（元家の光協会専務理事）	（平 25.8 ～）
理事	肥田美代子（文字・活字文化推進機構理事長）	（平 25.8 ～）
理事	上野 徹（元文藝春秋社長）	（平 29.8 ～）
監事	藤井武彦（トーハン顧問）	（平 25.8 ～）
評議員	高橋基陽（元光文社社長）	（平 25.8 ～）
評議員	石崎 孟（マガジンハウス会長）	（平 29.3 ～）
評議員	近藤敏貴（トーハン社長）	（平 31.3 ～）

なお、財団創立の平成25年から平成28年1月まで朝倉邦造氏（朝倉書店社長）が理事長を務められた。  
前・理事の田中健五（元文藝春秋社長）、前・評議員の浅野純次（元東洋経済新報社社長）、山下秀樹（元集英社社長）、小林辰三郎（元トーハン社長）の各氏は平成29年3月に、山崎厚男氏（元トーハン社長）は平成31年3月に退任された。

### ■ 高橋松之助（1908～1977）

明治41（1908）年、東京・京橋に生まれる。昭和8（1933）年三和銀行入行。  
昭和24（1949）年東京出版販売株式会社（現・トーハン）に入社。昭和52（1977）  
年6月に第4代社長に就任したが、同7月、急逝された。





## 4-5 全協主催・「朝の読書全国縦断交流会」開催一覧

### ■ 子どもゆめ基金（独立行政法人国立青少年教育振興機構）助成活動

#### 朝の読書全国縦断交流会

北海道交流会（札幌市中央図書館）	平成 21 年 11 月 23 日	（参加者総数 73 名）
山口県交流会（防府市地域協働支援センター）	平成 22 年 1 月 23 日	（83 名）
沖縄県交流会（豊見城市立中央公民館）	平成 22 年 2 月 5 日	（100 名）
神奈川県交流会（横浜市教育会館）	平成 22 年 11 月 21 日	（62 名）
和歌山県交流会（和歌山県民文化会館）	平成 23 年 1 月 22 日	（57 名）
群馬県交流会（群馬県公社総合ビル）	平成 23 年 2 月 5 日	（40 名）
奈良県交流会（奈良市商工会議所中ホール）	平成 23 年 11 月 19 日	（40 名）
滋賀県交流会（大津市びわ湖大津館）	平成 24 年 1 月 21 日	（52 名）
鹿児島県交流会（鹿児島市宝山ホール）	平成 24 年 2 月 4 日	（50 名）
大分県交流会（大分県立図書館）	平成 24 年 11 月 17 日	（35 名）
愛知県交流会（東別院会館）	平成 24 年 12 月 8 日	（49 名）
石川県交流会（石川県地場産業振興センター）	平成 25 年 1 月 26 日	（60 名）
山梨県交流会（山梨県立図書館）	平成 25 年 2 月 2 日	（53 名）
千葉県交流会（千葉市教育会館）	平成 25 年 11 月 30 日	（31 名）
福井県交流会（福井県産業会館）	平成 25 年 12 月 7 日	（39 名）
富山県交流会（富山県総合情報センター）	平成 26 年 1 月 25 日	（49 名）
佐賀県交流会（佐賀県教育会館）	平成 26 年 2 月 1 日	（25 名）
大塚先生講演会（大宮ソニックシティ）	平成 26 年 11 月 26 日	（21 名）
滋賀県実践交流会（ピアザ淡海）	平成 28 年 1 月 16 日	（60 名）

### ■ その他・朝の読書推進事業

「2016 朝の読書宮城県交流会」参加（仙台市市民活動サポートセンター）平成 28 年 8 月 5 日  
（主催：朝の読書宮城交流会実行委員会）

朝の読書シンポジウム「こどもがぐんぐん育つ朝の読書のひみつ」（秋田県生涯学習センター）  
平成 29 年 11 月 12 日（主催：秋田県教育委員会、全協、朝の読書推進協議会）

「第 8 回神奈川県朝の読書研究発表会」参加（海老名市文化会館）平成 30 年 8 月 20 日  
（主催：神奈川県朝の読書連絡会）

## 4-6 「朝の読書交流会」プログラム

平成22年度 子どもゆめ基金（独立行政法人国立青少年教育振興機構）助成活動

### 朝の読書全国縦断神奈川県交流会 開催のご案内

近年「心の教育」の重要性が指摘され、その具体的な方策として「朝の読書」を実践する学校が増え、いまや全国で2万6千校余を数えます。しかしながら、いつの時代も問われるのは「数」ではなく「質」そのものです。

「朝の読書」運動が林公、大塚笑子両先生により提唱され、実践されてから22年が経とうとしています。この間、「朝の読書」が実施されている現場では、何が変わり、何が変わらないのか。また何を変えてはいけないのか、大塚先生による講演を基調としてその「原点」を再度確認するとともに、「朝の読書」を捉え直す良い機会にしていだければと存じます。

また、これから「朝の読書」に取り組もう、取り入れようと考えている方々も、大塚先生をはじめとする経験豊富な先生方との交流によって新たな一歩を踏み出していだければ交流会開催の意義も達成されるものと考えます。

更に「朝の読書」を実施するにあたっては欠くことのできない学校司書の方々を含め、広く、忌憚のない交流ができれば主催者としてこれに勝る喜びはありません。児童、生徒が「朝の読書」に浸っている顔を思い浮かべながらご参加くださいますようよろしくお願いいたします。

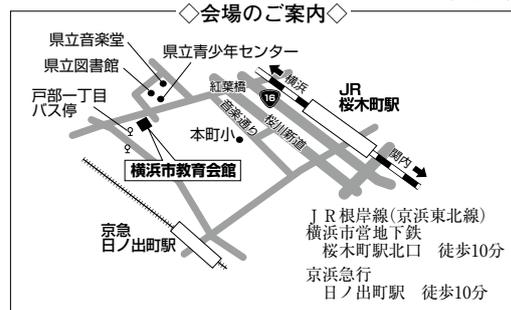
#### ● 交流会参加要領 ●

- 日 時 平成22年11月21日(日) 9:50~15:40  
(受付開始 9:20)
- 会 場 横浜市教育会館  
横浜市西区紅葉ヶ丘53  
TEL 045-231-0960
- 主 催 社団法人全国出版協会
- 後 援 神奈川県教育委員会・横浜市教育委員会  
(予定を含む)  
神奈川県市町村教育長連合会・神奈川県私立中学高等学校協会・神奈川県学校図書館協議会・横浜市学校図書館協議会・(財)横浜市教育会館・(社)全国学校図書館協議会・(社)日本図書館協会・(財)文字・活字文化推進機構・活字文化推進会議・(社)日本書籍出版協会・(社)読書推進運動協議会・日本児童図書出版協会・ヤングアダルト出版会・神奈川トーハン会・朝の読書推進協議会・全国朝の読書連絡会・(株)トーハン
- 参加方法 裏面の申込欄にご記入の上、FAXにてお申し込み下さい。  
受付後事務局より参加票をお送り致します。ご来場の際にご持参下さい。  
※ご応募の際の個人情報は参加受付・ご連絡等のみ使用します。
- 参加費 500円  
(資料代等・当日受付にて申し受けます)
- 申込締切 11月12日(金)
- 定 員 200名
- 申 込 先 社団法人全国出版協会  
朝の読書全国縦断交流会事務局  
〒162-0813 東京都新宿区東五軒町6-21  
TEL 03-5225-9711 FAX 03-5225-9722

#### ● 交流会の内容 ●

- 9:20 受付開始
- 9:50 開会  
光明学園相模原高等学校 教諭 山本静男  
主催者代表 全国出版協会 常務理事 阿部信行
- 10:00 開催地実行委員会代表挨拶  
神奈川県立厚木東高等学校 教諭 宮脇隆志
- 10:05 基調講演  
朝の読書推進協議会理事長 大塚笑子  
「『朝の読書』の原点を求めて」
- 11:35 移動・休憩
- 11:45 実践報告  
座間市立相武台東小学校 長島彩音  
伊勢原市立伊勢原中学校 櫻井綾子  
向上高等学校 青柳孝志
- 12:30 昼食
- 13:30 小・中・高別分科会  
コーディネーター  
小学校 朝の読書推進協議会理事 吉田法子  
中学校 全国朝の読書連絡会会長 栗原 勝  
高 校 朝の読書推進協議会理事長 大塚笑子
- 15:00 移動
- 15:10 分科会報告
- 15:25 総括 全国朝の読書連絡会会長 栗原 勝
- 15:35 閉会 全国出版協会常務理事 阿部信行
- 15:40 終了予定

(敬称略)



# 「朝の読書」の原点と現在

大塚笑子

「朝の読書」とは、毎朝始業前の10分間、生徒と教師と一緒に全校一斉で、自分の選んだ好きな本を各クラスで読むという、教育実践としては驚くばかりの簡単な方法です。活動を端的に表した4原則があります。

- みんなでやる
- 毎日やる
- 好きな本でよい
- ただ読むだけ

この「朝の読書」は昭和63年、同僚だった林はやしひろし先生が提唱されたものです。ある日、林先生は生徒たちの机を整理しているときに、「馬鹿野郎、死んでしまえ」と書いてある生徒の落書きを見て、苦悩する生徒を救える方法はないものかと心労を重ねる中で思いついたのが、全校一斉の「朝の読書」でした。

その提唱から実現まで紆余曲折はありましたが、私が自分のクラスで実践して成功したのが全校一斉への突破口となりました。

いったん自由に読書できる環境を創ると、生徒は熱心に本と向かい合うようになり、日に日に生

活態度が落ち着き始め、学習意欲も増し、読書の情操効果のすばらしさを実感しました。

ここで大切なことは、教師も生徒とともに読書をする、ということです。そして毎朝、生徒とともに時間を過ごすことにより、悩みを抱えていたり、普段とは違う態度をとっている生徒の様子がよくわかります。そしてそうした生徒に辛抱強く寄り添うように接することが重要なのです。

「朝の読書」の驚くべき教育効果を確信した私たちは、その後、執筆や講演など全国で普及活動を始めました。そしてトーハンと全国出版協会への支援をいただき、平成8年から教師や学校司書に向けた研修会「朝の読書全国縦断交流会」を開始しました。平成26年には47都道府県での開催を達成し、今も活動を継続しています。

「朝の読書」は現在、2万6,500校を超える学校で実施されています。一方、最近では単純な学力向上の志向により、朝の時間をドリル学習に変更するなどの事例も散見されます。しかし読書を通じて子どもたちは客観的に自分を見つめ直し、自力で現状に立ち向かっていきます。毎日読み続けることで何より大切な「生きる力」を身に付けていくのです。

読書の楽しみや喜びを素直に感じ、感性や想像力を養い、子どもたちに希望や夢を抱けるようになってもらいたい。これからも「朝の読書」の輪が広がっていくことを願ってやみません。

(朝の読書推進協議会理事長)

